

科目名		建築施工Ⅱ			
担当教員		渡邊 晋太郎		実務授業の有無	有
対象学科		インテリアデザイン科	対象学年	2	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		2年次は屋根工事の分野から学んでいく。 この前期では、その他の内外装工事のいろいろな施工方法や製品管理の仕方、材料の種類などを詳しく学び、それが理解できる様になることを目的とする。 後期に目指す2級建築施工管理学科試験、そしてその後の2級建築士学科試験を見据えて、詳しく学習する。			
学習目標 (到達目標)		2級建築施工管理学科試験、2級建築士試験合格レベルの知識定着を目標とする。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		図説 やさしい建築施工 (学芸出版社)、配布資料			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	屋根工事			屋根工事の種類を覚え、雨仕舞の施工方法を理解することができる。	
2	防水工事			防水工事の種類を理解し、納まりや手法を理解することができる。防水の一種でもある【シーリング工事】も一緒に学ぶ。	
3	左官工事			左官工事にかかわる材料の種類を学び、それをどのような工程で施工していくのかを理解する。	
4	タイル工事			タイルの種類を理解し、その施工方法を学ぶ。	
5	石工事			張り石工事の施工方法の種類を理解することができる。	
6	内装工事			内装工事の施工方法の種類を理解することができる。	
7	鉄骨工事			工場作業、現場作業について復習をおこなう。	
8	順次 評価テストを実施する。 (2回以上実施予定)				
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
期末試験	評価テスト	取り組み姿勢		各分野ごとに評価テストを行う。また、評価テスト及び期末試験時には知識の書き込みを課すのでその内容や量を取り組み姿勢として評価する。出席状況や授業中の取り組み姿勢も加味する。評価テストはもちろん、日頃の学習を疎かにすることなく、授業に臨むこと。	
50 %	40 %	10 %	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					

科目名		建築計画Ⅱ			
担当教員		熊谷貴子	実務授業の有無	有	
対象学科		建築大工・インテリア・建築デザイン	対象学年	2	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		非住宅建築物ごとの、種類・規模計画・動線計画・平面計画・断面計画・設備計画・関連用語などを学ぶ ・教科書で用語・数値など重要項目をチェック ・重要事項のまとめ板書 ・確認問題で出題形式の演習 ・テストで学習達成度を確認			
学習目標 (到達目標)		2級建築士試験の学科<計画>に対応できる知識を習得する			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		○図説 やさしい建築計画（学芸出版） 各自で準備 ●教科書をチェックするマーカーペン ●板書を記入するノート			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	小学校・中学校			運営方式、動線計画、教室計画、関連用語を学ぶ	
2	幼稚園・保育所			幼稚園と保育所の違い、幼児に配慮した各部計画を学ぶ	
3	確認問題1			学習内容の確認	
4	図書館			種類、構成、動線計画、閲覧形式、書架配置、用語を学ぶ	
5	博物館・美術館			種類、構成、動線計画、巡回形式、照明計画、用語を学ぶ	
6	確認問題2			学習内容の確認	
7	劇場・映画館			種類、構成、動線計画、舞台形式、客席計画を学ぶ	
8	事務所			レントラブル比、コアプラン、事務室の計画、関連用語を学ぶ	
9	確認問題3			学習内容の確認	
10	期末テスト			学習達成度を確認する	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
期末テスト	提出物	取組姿勢		様々な建築物の計画を学び、身近な建築物の計画に興味を持って接していきましょう	
60 %	20 %	20 %	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					

科目名		コーディネート実習Ⅱ			
担当教員		窪田 大希		実務授業の有無	有
対象学科	インテリアデザイン科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	選択必修	授業形式	実習	時間数	48時間
授業概要、目的、授業の進め方	建築とデザインの基礎、インテリア・住宅空間・実務に関する基本などを学び、講義を通しIC資格の取得を目指す 1. 建築、デザイン他インテリア関連の諸知識、実務ををしっかり理解する 2. コーディネーターとしての実務、プレゼン手法を理解する 3. インテリアコーディネーター資格試験対策 4. 講義→練習問題→解答→過去問題→解答→解説を繰り返すことで確実な解答精度上げる。				
学習目標 (到達目標)	IC資格試験合格に向けての対策講座です。重要キーワードの解説と問題演習を行い合格へ向けて、知識を高めます。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	①インテリアコーディネーターハンドブック上・下、 ②インテリアコーディネーター一次試験過去問題集上・下				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	下巻 第6章 インテリアの構造・構法と仕上げ【構造】			方法：各分野ポイント解説、演習問題で知識の定着を図る。 合格ラインの点数を目標に弱点の克服、自宅学習も義務付ける。 準備：教科書①・②の復習と過去問題の学習	
2	下巻 第6章 インテリアの構造・構法と仕上げ【構法】			方法：各分野ポイント解説、演習問題で知識の定着を図る。 合格ラインの点数を目標に弱点の克服、自宅学習も義務付ける。 準備：教科書①・②の復習と過去問題の学習	
3	下巻 第6章 インテリアの構造・構法と仕上げ【材料】			方法：各分野ポイント解説、演習問題で知識の定着を図る。 合格ラインの点数を目標に弱点の克服、自宅学習も義務付ける。 準備：教科書①・②の復習と過去問題の学習	
4	上巻 第5章 インテリアエレメント【材料】			方法：各分野ポイント解説、演習問題で知識の定着を図る。 合格ラインの点数を目標に弱点の克服、自宅学習も義務付ける。 準備：教科書①・②の復習と過去問題の学習	
5	下巻 第6章 インテリアの構造・構法と仕上げ【仕上げ】			方法：各分野ポイント解説、演習問題で知識の定着を図る。 合格ラインの点数を目標に弱点の克服、自宅学習も義務付ける。 準備：教科書①・②の復習と過去問題の学習	
6	上巻 第5章 インテリアエレメント【塗料】			方法：各分野ポイント解説、演習問題で知識の定着を図る。 合格ラインの点数を目標に弱点の克服、自宅学習も義務付ける。 準備：教科書①・②の復習と過去問題の学習	
7	下巻 第8章 インテリアコーディネーションの表現			方法：各分野ポイント解説、演習問題で知識の定着を図る。 合格ラインの点数を目標に弱点の克服、自宅学習も義務付ける。 準備：教科書①・②の復習と過去問題の学習	
8	下巻 第9章 インテリア関連の法規、規格、制度			方法：各分野ポイント解説、演習問題で知識の定着を図る。 合格ラインの点数を目標に弱点の克服、自宅学習も義務付ける。 準備：教科書①・②の復習と過去問題の学習	
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
取組姿勢	評価テスト			資格取得を目指す。しっかりと準備して意識づけを行い、授業に取り組む。インテリアコーディネーター学科試験でも出てくる分野なを、繰り返す行こうことで重要なポイントをしっかりと理解させる。習熟度を上げるために、正解率の低い回答については、十分な解説を行う。	
20 %	80 %	%	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					

科目名		コーディネート実習Ⅰ			
担当教員		木戸 久美子		実務授業の有無	有
対象学科	インテリアデザイン科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	選択必修	授業形式	実習	時間数	48時間
授業概要、目的、授業の進め方		インテリア・住宅空間・デザインに関する基礎知識を学び、実務能力を向上させるとともに、インテリアコーディネーター資格取得を目指します。 ■主な学習内容：建築、デザイン、インテリア関連の基礎知識を学び、コーディネーターとしての実務スキルやプレゼン手法を習得しつづ、資格試験対策を通じて必要な知識とスキルを強化する。 ■学習方法：理論の講義→練習問題の取り組み→解答と解説の共有→過去問題の分析と解答練習			
学習目標 (到達目標)		インテリアコーディネーター資格試験に必要な知識を体系的に学び、重要キーワードの理解を深めるとともに、過去問題や応用問題を解くことで実践力を向上させます。2次試験では、プレゼンテーション能力や実務的な知識が求められます。実技対策を中心に、試験本番での実践力を高めるためのトレーニングを行います。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		①インテリアコーディネーター ハンドブック上・下巻 ②インテリアコーディネーター 一次試験過去問題徹底研究上・下巻			
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	第4章 インテリアコーディネーションの計画 練習問題・過去問題		方法：各分野ポイント解説、演習問題で知識の定着を図る。 合格ラインの点数を目標に弱点の克服、自宅学習も義務付ける。 準備：教科書①・②の復習と過去問題の学習		
2	第5章 インテリアエレメント (家具) 練習問題・過去問題		方法：各分野ポイント解説、演習問題で知識の定着を図る。 合格ラインの点数を目標に弱点の克服、自宅学習も義務付ける。 準備：教科書①・②の復習と過去問題の学習		
3	第5章 インテリアエレメント (造作部品) 練習問題・過去問題		方法：各分野ポイント解説、演習問題で知識の定着を図る。 合格ラインの点数を目標に弱点の克服、自宅学習も義務付ける。 準備：教科書①・②の復習と過去問題の学習		
4	第5章 インテリアエレメント (窓装飾) 練習問題・過去問題		方法：各分野ポイント解説、演習問題で知識の定着を図る。 合格ラインの点数を目標に弱点の克服、自宅学習も義務付ける。 準備：教科書①・②の復習と過去問題の学習		
5	第5章 インテリアエレメント (カーペット) 練習問題・過去問題		方法：各分野ポイント解説、演習問題で知識の定着を図る。 合格ラインの点数を目標に弱点の克服、自宅学習も義務付ける。 準備：教科書①・②の復習と過去問題の学習		
6	第5章 関連エレメント 練習問題・過去問題		方法：各分野ポイント解説、演習問題で知識の定着を図る。 合格ラインの点数を目標に弱点の克服、自宅学習も義務付ける。 準備：教科書①・②の復習と過去問題の学習		
7	第5章 インテリアエレメント (窓装飾) 練習問題・過去問題		方法：各分野ポイント解説、演習問題で知識の定着を図る。 合格ラインの点数を目標に弱点の克服、自宅学習も義務付ける。 準備：教科書①・②の復習と過去問題の学習		
8	第5章 インテリアエレメント (カーペット) 練習問題・過去問題		方法：各分野ポイント解説、演習問題で知識の定着を図る。 合格ラインの点数を目標に弱点の克服、自宅学習も義務付ける。 準備：教科書①・②の復習と過去問題の学習		
9	第5章 関連エレメント 練習問題・過去問題		方法：各分野ポイント解説、演習問題で知識の定着を図る。 合格ラインの点数を目標に弱点の克服、自宅学習も義務付ける。 準備：教科書①・②の復習と過去問題の学習		
10	2次試験対策 (製図) ・ 評価基準と出題傾向の分析 ・ 過去の試験問題の解説		方法：図面を繰り返しトレースし、各種図面の作図方法を理解する。 合格ラインの点数を目標に弱点の克服、自宅学習も義務付ける。 準備：配布プリント		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
取組姿勢	評価テスト			インテリアコーディネーター資格取得を目指し、計画的に学科試験と2次試験対策を進めながら、重要な分野を繰り返し学習し、実践力を磨きます。わからないことは丁寧に解説し、一つひとつ着実に理解を深めていくことで、自信を持って試験本番に臨めるようになります。努力の積み重ねが実を結び、夢へとつながる道を一步步歩いていきましょう。	
20 %	80 %	%	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴		インテリアコーディネーターの業務における歴19年			

科目名		構造力学Ⅱ			
担当教員		星野 麻子		実務授業の有無	有
対象学科	インテリアデザイン科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形式	講義	時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	1年次に習得した反力及び応力の基礎知識を基にすすめる為、まずはこれまでに得た知識の定着を確認する。その上で断面の性質について学び、様々な問題を通して習得する。更に1年次で学んだ部材に生じる力を基に、応力度に関する知識を習得する。各項目について理解状況の確認の為テストを行う。				
学習目標 (到達目標)	部材の断面に作用する力の種類と性質を理解し、断面に係る力の算定方法を習得する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	図説 やさしい構造力学・配布プリント				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	断面一次モーメント(図心)			図心を理解して断面1次モーメントを学び、例題を利用して解法を習得する。	
2	断面二次モーメント			中立軸を理解し、例題を利用して断面二次モーメントの解法を習得する。	
3	断面係数			断面係数を理解して解法を学び、例題を利用して断面二次モーメントと共に習得する。ここまですべてを評価テスト1で確認する。	
4	軸応力度			軸応力度とひずみ度の関係を理解し、軸応力度の解法を習得する。	
5	曲げ応力度			曲げ応力度を理解し、曲げモーメントとの関係を習得する。	
6	せん断応力度			せん断力とせん断応力度との関係を理解し、せん断応力度の解法を習得する。	
7	許容応力度			材料の塑性による限界値を学び、その値より小さい許容値=許容応力度について習得する。	
8	許容曲げモーメント			曲げ応力度が許容曲げ応力度に達するときの曲げモーメントの値=許容曲げモーメントについて習得する。ここまですべてを評価テスト2で確認する。	
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
評価テスト1	期末試験	—	取組姿勢	構造力学は建築士試験に於いて点数の稼ぎどころとなる部分です。全ての項目に於いてその後の問題を解くために確実に身に付けていかなくてはなりません。分からないところを分からないままにせずしっかりと身に付けて次に進むようにしましょう。解けた時の達成感を楽しみながら学習しましょう。	
40 %	50 %	— %	10 %		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					

科目名		PC実習				
担当教員		渡邊 美歌		実務授業の有無	有	
対象学科		インテリアデザイン科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択		必修	授業形式	実習	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方		Adobe Photoshop、illustratorを使用して画像編集、テキストの使用、印刷物を作成できるようになる。基本操作を学習した後で実際に作品を完成させながら操作を定着させる。				
学習目標 (到達目標)		Adobe Photoshop、illustratorの基本的な画像編集、テキストの使用、印刷物の作成ができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		講師の用意する教材。iPadを毎回準備してください。				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	illustratorを使用した印刷物の作成			illustratorの基本及び、基本図形を使用した印刷物を作成しながら操作を学習する。		
2	illustratorにおける画像の配置とテキストを使用した印刷物の作成			画像の配置とテキストの追加の仕方について学習する。		
3	フォントのインストール			Adobeフォントやフリーフォントのインストールと使用上の注意について学習する。		
4	トレースの練習			手書きデータやスキャンデータを図形やペンツールを使用してトレースすることを学習する。		
5	画像の傾きと明るさ・色調・彩度の編集 画像に入った不要物を消す			画像に対し、Photoshopで修正を加えてより良いものにするスキルを身に着ける。		
6	様々な塗りの練習 (塗りつぶし・ブラシ・エアブラシ・グラデーション)			Photoshopでの選択範囲作成、着色するスキルを学習する。ブラシの追加を学習する。		
7	画像の切り抜きと合成			画像を切り抜き、合成・なじませるスキルを身に着ける。建築分野では使用頻度が高い為、繰り返し練習することで操作を確実に習得する。		
8	様々な表現技法			使用頻度の高いテキストの使用、レイヤーモード、水彩加工、フィルタの設定、人物シルエットの合成などの操作を実際に制作を通じながら学習する。		
9						
10						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
平常点	課題			Photoshop・illustratorは基本を学習したのち、とにかく使うことが大切です。作品の作成を通じてソフトを使いながらどんどん慣れていきましょう。絵筆や様々な画材と同様、操作の基本を学習したら表現の仕方は無限大です。ソフトを楽しみ、好きになって欲しいです。		
20 %	80 %	%	%			
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満)						
B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満)						
D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。						

科目名		建築法規Ⅱ				
担当教員		佐野 綾香		実務授業の有無	有	
対象学科		インテリアデザイン科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方		「建築法規Ⅱ」は、1年次の基礎知識を基に、二級建築士試験・実務に対応出来る建築法規の習得を目的とする。授業内容に伴い、基準法・施行令・告示等の関連を練習問題等で確認して条文の理解を深める。				
学習目標 (到達目標)		二級建築士取得に必要な建築法規の知識習得を目指す				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		「図説やさしい建築法規」・著者：今村仁美・田中美都 発行所：(株)学芸出版社、「建築関係法令集 発行所：(株)総合資格学院」				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	防火地域・準防火地域・法22条区域			防火地域(準防火地域)内に関する建築物の規定を説明する。 ※理解度のチェックを評価テストで確認。		
2	耐火構造・準耐火構造・防火構造等			建築物の耐火性能、防火材料に関する説明。また、用途・規模等による必要な構造の確認。(建築基準法 別表1による確認) ※理解度のチェックを評価テストで確認。		
3	大規模建築物の防火区画			大規模建築物の用途・規模等による必要な防火区画・種類等を確認。防火区画の各種構造等を説明する。 ※理解度のチェックを評価テストで確認。		
4	特殊建築物の内装制限			建築物の用途・規模等による必要な内装制限があることを説明する。 ※理解度のチェックを評価テストで確認。		
5	避難施設(避難経路・直通階段・避難階段・排煙設備・非常用の避難施設)			廊下・階段等の必要な幅・出入口等、排煙設備・非常用の照明・進入口・昇降機の設置基準、構造が理解する。 ※理解度のチェックを評価テストで確認。		
6	構造強度(木造) ※この項目は、時間があれば行うもの とします			木造建築物の構造強度に関する規定を説明。また、構造計算・許容応力度計算の説明と確認を行う。 ※理解度のチェックを評価テストで確認。		
7						
8						
9						
10						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
期末テスト	評価テスト	取組姿勢		法令は建築の全てで、つながっています。1年生で習った授業を思い出しながら、その関連する条項条文を確認できるように法令集を使いこなせるが大切です。いづれ皆さんの役立つ時がくると思いますので、難しく考えず、一緒に頑張ってください。		
50 %	40 %	10 %	%			
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満)・B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満)・D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。						

科目名		3DインテリアII			
担当教員		木戸 久美子		実務授業の有無	有
対象学科	インテリアデザイン科	対象学年	2年	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形式	実習	時間数	48時間
授業概要、目的、授業の進め方		<p>実務で求められる3Dパース技術やプレゼンテーションのスキルを習得することを目的とします。</p> <p>演習: プレゼンテーションの基本理論や実際の課題を基にした3Dパースの作成練習。</p> <p>添削と解説: 学習進度に応じた指導を行い、理解度や技術の向上を促す。</p> <p>課題制作: 条件に則したデザイン作成を中心に、作品としての完成度を追求。</p> <p>プレゼンテーション: 作成した課題の発表を行い、実践的な発表技法を習得する。</p>			
学習目標 (到達目標)		インテリアコーディネーターとして求められるプレゼンテーションスキルの重要性を深く理解し、実務に活かすための基礎をしっかりと学びます。3Dソフトの基本操作を習得する過程で、コーディネート知識とセンスを磨き、訴求力のあるプレゼンテーションボードを作成する技術を身につけます。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		<ul style="list-style-type: none"> ・超図解で全部わかる インテリアデザイン入門 ・3DインテリアデザイナーNeo10 			
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	「店舗併用住宅のプランニング」① ■デザインと間取りのブラッシュアップ ・間取り設計における基本的な考え方を習得する。 ・修正作業を通じて設計の完成度を向上させる。		方法: オリジナル作品制作を行う。 発表までの工程やクオリティ管理を行う。 目標: 工程、精度とともに実務で活かせるレベルを目指す。 準備: 配布プリント		
2	「店舗併用住宅のプランニング」② ■屋根や外構のプランニングをブラッシュアップ ・美観と機能を両立した屋根や外構デザインを習得する。		方法: オリジナル作品制作を行う。 発表までの工程やクオリティ管理を行う。 目標: 工程、精度とともに実務で活かせるレベルを目指す。 準備: 配布プリント		
3	「店舗併用住宅のプランニング」③ ■効果的なプレゼンテーションボードの作成方法を習得する。 ・構成とデザイン技術を理解し、訴求力のある作品を制作する。 ・作品発表を通じて企画意図を的確に伝えるスキルを磨く。		方法: 各自コンセプトや内容について発表し、講評を行う。 目標: 工程、精度とともに実務で活かせるレベルを目指す。 準備: 配布プリント		
4	「店舗併用住宅のプランニング」④ ■作品発表 ・企画の意図やデザインポイントを的確に伝える能力を育成する。 ・フィードバックを通じ改善点を理解し、デザイン力向上を目指す。		方法: オリジナル作品制作を行う。 発表までの工程やクオリティ管理を行う。 目標: 工程、精度とともに実務で活かせるレベルを目指す。 準備: 配布プリント		
5	「インテリアデザインペ2025」① ■テーマ設定、要望について理する コンペの概要説明、テーマ発表、アイデア出しのワークショップを実施。デザインの方向性を決める。		方法: オリジナル作品制作を行う。 発表までの工程やクオリティ管理を行う。 目標: 工程、精度とともに実務で活かせるレベルを目指す。 準備: 配布プリント		
6	「インテリアデザインペ2025」② ■デザインコンセプトのブラッシュアップ コンセプトを具体化し、スケッチや初期プランを作成。コンセプトを共有し、フィードバックを受ける。		方法: オリジナル作品制作を行う。 発表までの工程やクオリティ管理を行う。 目標: 工程、精度とともに実務で活かせるレベルを目指す。 準備: 配布プリント		
7	「インテリアデザインペ2025」③ ■デザイン案の実践的な制作。途中段階のレビューを実施し、修正点や改善案を明確化する。		方法: オリジナル作品制作を行う。 発表までの工程やクオリティ管理を行う。 目標: 工程、精度とともに実務で活かせるレベルを目指す。 準備: 配布プリント		
8	「インテリアデザインペ2025」④ ■図面や3Dパース、コンセプトボードを作成。視覚的に魅力的で説得力のある発表資料を整える。		方法: オリジナル作品制作を行う。 発表までの工程やクオリティ管理を行う。 目標: 工程、精度とともに実務で活かせるレベルを目指す。 準備: 配布プリント		
9	「インテリアデザインペ2025」⑤最終発表と評価会 ■作品を発表し、教員や学生からの講評を受ける。優れた作品を表彰し、次回への課題を明確にする。		方法: 作品を発表し、課題解決力を説明する。 講評と評価: 改善案を共有し、参加者間で学びを深める。 成果の共有: 課題を振り返り、次回の目標を設定する。		
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
平常点	課題			コンペ形式を通じてインテリアデザインの実践力を磨き、講義と実習を通じて企画力、デザイン力、プレゼンテーション力を向上させることを目的とする。トレンドの分析力やマーケティング要素を取り入れながら、条件整理と考え方の流れを意識して取り組み、訴求力のあるプレゼンテーションシートを制作し、実践的なプレゼンテーションスキルを習得する。	
30 %	70 %	%	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満)・B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満)・D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴		インテリアコーディネーターの業務における歴19年			

科目名		一般構造 II			
担当教員		鈴木 丈就		実務授業の有無	有
対象学科		建築系学科	対象学年	2	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		2年生では鉄骨造・鉄筋コンクリート造を中心に学び、それぞれの構造の特徴や各部材名称などを覚えていく。分野ごとに確認問題を解きながら進めていき、学習した内容を覚えられるようにしていく。			
学習目標 (到達目標)		鉄骨造・鉄筋コンクリート造を中心に学び、2級建築士試験の「構造」の知識を習得する。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		①図説 やさしい建築一般構造 (学芸出版社) ②配布プリント (OneNote)			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	鉄骨造-1 ①鉄骨造の特徴 ②構造形式			方法：テキスト、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
2	鉄骨造-2 ①接合部 (リベット、普通ボルト、高力ボルト)			方法：テキスト、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
3	鉄骨造-3 ①接合部 (溶接)			方法：テキスト、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
4	鉄骨造-4 ①部材の設計、各部の構造			方法：テキスト、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
5	鉄筋コンクリート造-1 ①コンクリートの特徴 ②鉄筋の特徴			方法：テキスト、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
6	鉄筋コンクリート造-2 ①鉄筋コンクリート造の特徴、原理 ②構造形式			方法：テキスト、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
7	鉄筋コンクリート造-3 ①鉄筋の配筋計画			方法：テキスト、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
8	鉄筋コンクリート造-4 ①各部の構造 ②せん断補強筋比の計算			方法：テキスト、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
9	その他の構造 ①SRC造・補強コンクリートブロック構造 ②組積造・プレストレストコンクリート造			方法：テキスト、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
10	評価テスト (2回実施予定)				
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
期末テスト	評価テスト	取組姿勢		社会に出てからの実務や建築士試験を受験するときに不可欠な、建築一般構造について学びます。	
50 %	40 %	10 %	%	2年生ではS造、RC造について学び、確認問題・評価テストで理解度を確認しながら合格基準への到達を目標とします。	
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					